

## 1-1 日本とその周辺の地震活動（2018年11月～2019年4月）

### Seismic Activity in and around Japan (November 2018 - April 2019)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺でM5.0以上の地震は73回、M6.0以上の地震は8回発生した。このうち最大のもは、2019年4月18日14時01分に台湾付近で発生したM6.5の地震であった。また、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（M9.0、最大震度7、以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ）の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2018年11月～2019年4月のM5.0以上の地震の震央分布を第1図(a)及び(b)に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

#### (1) 北海道地方とその周辺の地震活動（本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年11月5日04時26分に国後島付近の深さ20kmでM6.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震は陸のプレートの地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2019年2月21日21時22分に胆振地方中東部の深さ33kmでM5.8の地震（最大震度6弱）が発生した。この地震は陸のプレート内で発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ型である。

2019年3月2日12時22分に根室半島南東沖の深さ33km（CMT解による）でM6.2の地震（最大震度4）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

#### (2) 東北地方とその周辺の地震活動（本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年11月28日11時23分に青森県東方沖の深さ17km（CMT解による）でM5.7の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸のプレートの地殻内で発生した。

2019年3月11日02時10分に福島県沖の深さ19km（CMT解による）でM6.0の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

2019年4月11日17時18分に三陸沖の深さ19km（CMT解による）でM6.2の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生したM5.0以上の地震は9回、M5.5以上の地震は3回であった。

#### (3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動（本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年11月27日08時33分に茨城県南部の深さ44kmでM5.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸の

プレートの境界で発生した。

2019年3月11日18時33分に硫黄島近海でM6.1の地震（震度1以上を観測した地点なし）が発生した。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2018年11月2日16時53分に紀伊水道の深さ44kmでM5.4の地震（最大震度4）が発生した。また11月5日にも紀伊水道の深さ45kmでM4.6の地震（最大震度3）が発生した。これらの地震は、発震機構がいずれも東北東－西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、いずれもフィリピン海プレート内部で発生した。

2019年3月13日13時48分に紀伊水道の深さ43kmでM5.3の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動（本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2019年1月3日18時10分に熊本県熊本地方の深さ10kmでM5.1の地震（最大震度6弱）が発生した。この地震は、地殻内で発生した。発震機構は、南北方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。この地震の発生以降、震源付近で地震活動が活発になり、1月26日14時16分に発生したM4.3の地震（最大震度5弱）を含め、2月末までに震度1以上を観測した地震が10回発生した。

2019年1月8日21時39分に種子島近海の深さ30kmでM6.0の地震（最大震度4）が発生した。この地震の後、地震活動がやや活発になり、3月30日05時55分にもほぼ同じ場所でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。これらの地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

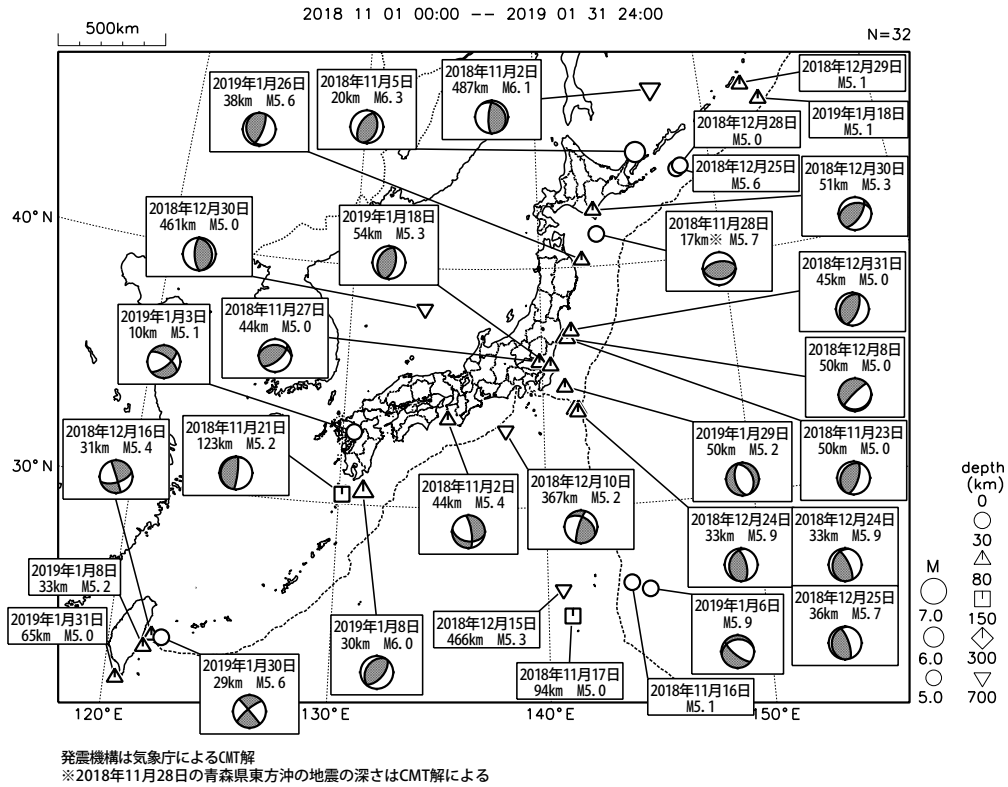
2019年3月27日09時11分に日向灘の深さ15kmでM5.4の地震（最大震度3）が発生した。また、同日15時38分にその近傍でM5.4の地震（最大震度4）が発生した。これらの地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動（本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照）

2019年4月18日14時01分に台湾付近の深さ20kmでM6.5の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

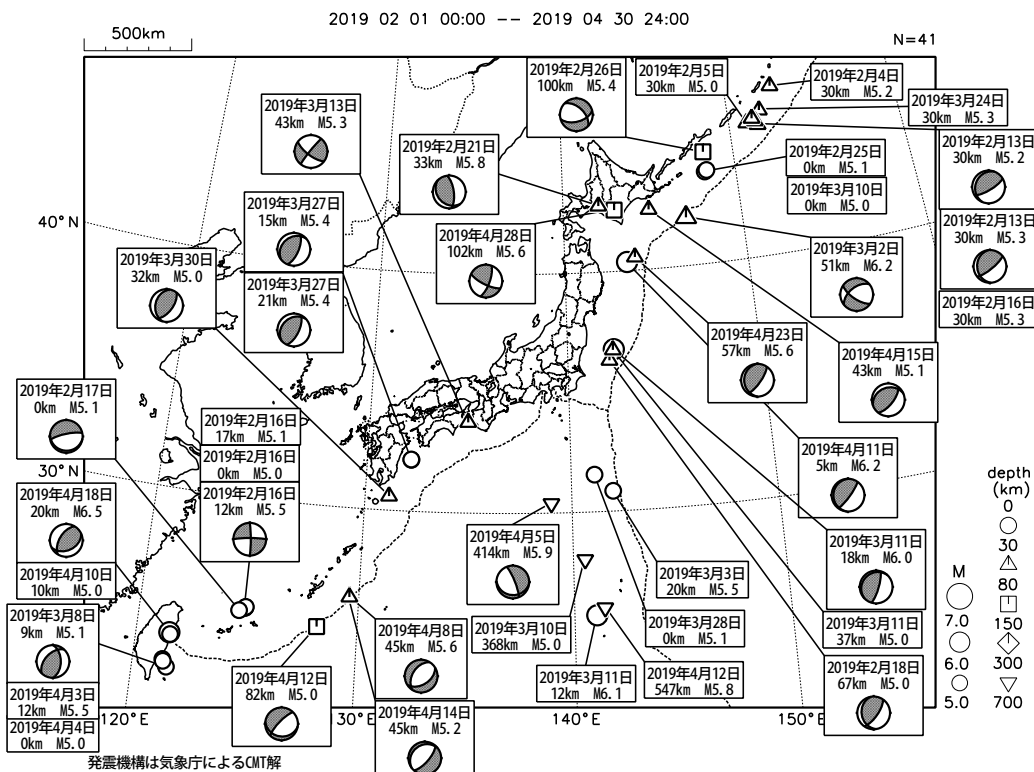
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。2016年4月1日以降の震源では、Mの小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

日本とその周辺の地震活動 (2018年11月~2019年1月、 $M \geq 5.0$ )



第1図(a) 日本とその周辺の地震活動 (2018年11月~2019年1月,  $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km) .  
Fig. 1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2018 – January 2019,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$  km).

日本とその周辺の地震活動 (2019年2月~4月、 $M \geq 5.0$ )



第1図(b) つづき (2019年2月~4月,  $M \geq 5.0$ , 深さ  $\leq 700$ km) .  
Fig. 1(b) Continued (February – April 2019,  $M \geq 5.0$ , depth  $\leq 700$  km).